

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	人生最期を支える看護 がん性疼痛看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	10 (5) 時間(単位)
対 象 学 年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	大阪医療看護専門学校
担 当 教 員	檜垣 明日香	実務経験と その関連資格	総合病院を経て千里中央病院の緩和ケア病棟や訪問看護ステーションにて勤務、がん性疼痛看護認定看護師現在10年目			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>人生最期を支える看護として、がん看護における国の動向からがん治療と看護の実際について学び、苦痛を抱える患者とその家族についてトータルペイン(全人的苦痛)の視点で捉え、アセスメントする方法を演習で体験します。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>テストによる採点(演習内容などは点数に含まない)</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>がん看護学(医学書院)、がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン(日本緩和医療学会出版)、ホスピス財団HP ホスピス・緩和ケアに関する意識調査、関西臨床倫理研究会 研修資料など</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>・がん看護の図書の指定のセクションを事前に読んでおくこと(授業毎にページ数提示しております)</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>がん患者の治療期・終末期は急速な症状変化があり、チームで包括的に捉えて方策を検討することが不可欠です。実習において多職種と連携を意識的することができるよう、動機付けになるような講義を考えています。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	がん対策の国の動き(施策)やがん看護に必要ながん疫学や動向について学び、がん看護における役割について考えることができる。	パワーポイント		・がん看護(P12-40)
		各コマにおける授業予定	がん医療の現在 (がん対策について、がんと診断されたときからの緩和ケアと今後の展望、がんサバイバーシップとは、AYA世代のケア、がん医療における地域包括ケア、がん疫学、エビデンスに基づく看護実践)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	がんの特徴と臨床経過を知り、がんに伴いどのような苦痛を患者さんが体験するのかを知り、がん看護について考えることができる。	パワーポイント		・がん看護(P44-81) ・前回配布資料を復習
		各コマにおける授業予定	がんの病態と臨床経過 (がんの病態:がんの発生と特徴、がんの臨床経過、がん治療と経過観察、治療の評価について、がん緊急症、がんに伴うカヘキシアと倦怠感、緩和ケア:緩和ケアの定義と理念の復習、がん性疼痛看護)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	がん患者さんの経過のターニングポイントにおいて、どのような関わりや調整が必要か考えることができる。	パワーポイント		・がん看護(P280-305) ・前回配布資料を復習
		各コマにおける授業予定	がん治療の場と看護 (外来がん看護の現状、外来におけるがん看護、がん患者療養支援)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ストレスと危機の関係、対処機制や防御機制など根拠となる理論について学び、患者とその家族への心理的サポートを考えることができる。	パワーポイント		・がん看護(P90-131) ・前回配布資料を復習
		各コマにおける授業予定	がん患者の看護 (がん患者の苦痛に対するマネジメント、がん患者の心理的サポート、がんの予防と早期発見、臨床試験を受ける患者のケア)			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	1、がん患者をトータルペインの視点で捉える事の重要性が理解できる。2、学びを共有し、話し合いに肯定的に取り組むことができる。	パワーポイント		第4回の授業で事例と事前課題を配付、第5回で持参すること
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション(5分) 事例検討グループワーク(予定35分) 発表(各グループ3分以内)			